

ファストファッションの雄「H&M」売上げ減でも  
店舗増やし続ける無謀

# 実業界

# 12

The Analytical  
Magazine  
for Economics

創刊60周年

毎月1日発売

昭和27年2月28日第三種郵便物認可  
毎月1回1日発行 平成23年12月1日発行 第994号

2011

## 「野村HD」

ホールセールで“大ナタ”  
恐慌前夜の正念場

■経団連会長会社  
「住友化学」で相次ぐ  
工場火災事故

■「あおぞら銀行」  
豪州銀行への身売り話も消え  
見えぬ活路

SoftBank

au



虫歯や歯周病などが原因でない歯の痛みを訴える患者さんとその治療法を前号では紹介した。

「非定形性歯痛」と言われ、口腔心身症の一つである、この種の歯痛は、自律神経のバランスが崩れることがその原因の一つと考えられる。

本稿では、もう一歩踏み込んで、深刻な歯の痛みを訴える方に共通したお人柄や人となり、病気との関係を記していきたい。

生真面目さ、完璧主義な考え方——。そういう皆さんのすべてが、病気になるわけではない。

むしろ、真面目さや、完璧に事を成していくことで、社会的にも成功されている方も少なくない。

だが、仕事での失敗、家族の問題など、端から見れば、なんでもないことが、きっかけで、ストレスを抱え込んでしまうヒトもいる。こうした方々の性格や考え方は健康にと

## 十 未病の憂い

歯科医が語る現代版養生訓

つて、ブレキとなる。

本来は、生きていく上での強力なエンジンであつたはずの性格やモノの考え方だけに、なかなか自力で変えていくことは難しい。

前号で紹介した非定形歯痛の四時代の女性患者さんだけでなく、同じ症状を訴え来院される方には、相当程度、共通点が見られる。

- ①生真面目な性格や、考え方のクセ
- ②日常生活において長年、自分のためだけの時間が持てない（オンとオフの切り替えが上手くできない）
- ③病院へかかるほどではないが、長

い間、だるさなどのカラダの不調を抱えている

④当院へ来られる前に、複数回歯科にかかっていたが、一向に症状が改善しない

これら原因不明の「歯痛」や「顎関節の不調」を訴える患者さんに対し、これまで当コラムで紹介してきた「光線治療器」による自律神経のバランスを整える治療を、当クリニックでは数多く行ってきたが、多くの方が約六ヶ月から一年ほどで症状が改善、健康を取り戻している。

だが、ヒトのカラダとココロは、様々。治療効果が出て、また少し症状が出てくる、あるいは、痛みが再発する方もゼロではない。

そういう方の場合、話を伺うと、結局、再度ストレスフルな状況にその身を置き、無理な生き方や考え方のワナにハマってしまっている方がほとんどなのだ。

裁判官や検察官のように、ご自身にキツく当たって病気になるのだから、自分の顧問弁護士のようにご自身をいたわるように、と患者さんに申し上げることもある。

さらに「無理のない生き方や考え方に少しずつでも良いので近づいていってください

## 歯の痛み、グセにしては「大事に

い」と、歯科治療とは別にアドバイスするが、多くの方は本来の自分を取り戻し、不調を訴えに再来院という方は極めて少ない。

健康になられてから、まるで別人の話のように、ご自身が苦しんでおられた頃の話や、歯の定期健診の際、私に話される方もいる。

「歯の治療だけでなく、先生の一言ひとことが、クスリのようにカラダに染みていった。健康になつただけでなく、先生の何気ない一言のおかげで（自分が）変わった」という言葉をいただく、医者をやっていて良かったとしみじみ思う。

無理な生き方や考え方というものは、カラダに不調が出てはじめて気付かされることの方がむしろ多い。

カラダやココロが発してくれさせたつかくの「サイン」を、我々現代人は、もう少し大事にする必要がある。さらに言えは、病気を完成させない。生き方や考え方を身につけていく、予防的な自身へのいたわりということも大事なのだ。

## 顎関節症

「ライマウス」

長栄歯科クリニック  
亀井 英志  
Kamei Hidetshi

ストレスは

見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとき、歯を食いしばっている。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書「すべては「噛みしめ」が原因だった」をお読みいただきたい。未病の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

